

2021
BEST
FACULTY
MEMBER

2021 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	箕輪 真理	教授	1
人文社会系	澤田 浩子	准教授	2
人文社会系	山本 英弘	准教授	3
ビジネスサイエンス系	尾碇 幸謙	准教授	4
数理物質系	青嶋 誠	教授	5
数理物質系	中條 達也	講師	6
数理物質系	中村 貴志	助教	7
システム情報系	佐野 幸恵	助教	8
生命環境系	磯田 博子	教授	9
生命環境系	稲葉 一男	教授	10
生命環境系	江面 浩	教授	11
人間系	小川 園子	教授	12
人間系	山田 実	教授	13
体育系	増地 克之	准教授	14
体育系	辻 大士	助教	15
芸術系	山本 美希	准教授	16
医学医療系	井上 貴昭	教授	17
医学医療系	坂田 麻実子	教授	18
医学医療系	松本 正幸	教授	19
医学医療系	丸島 愛樹	講師	20
医学医療系	讃岐 勝	助教	21
図書館情報メディア系	井上 智雄	教授	22
計算科学研究センター	日下 博幸	教授	23
計算科学研究センター	塩川 浩昭	准教授	24
生存タフミクス研究センター	丹羽 隆介	教授	25

箕輪 真理 教授

所属 人文社会系

専門分野 開発経済学
ラテンアメリカ研究



— 業績 —

「つくばトランスパシフィックプログラム」の実施委員長として、中南米5カ国6大学との共同運営委員会による自走化を進め、世界展開力強化事業の事後評価で「S評価」を得た。国際公共政策学位プログラムリーダーとして、新組織の運営体制の構築に尽力し、世銀、JICAなどの奨学金による英語特別プログラムの運営および学生指導に精力的に貢献した。さらに、人文社会系運営委員会、人事委員会委員および系国際化推進室長として系の研究教育の発展に尽力した。

略歴

財団法人国際開発センター研究員、世界銀行エコノミスト、筑波大学社会科学系講師、准教授等を経て、平成27年4月より現職。令和2年4月～現在、人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラムリーダー。

澤田 浩子 准教授

所属 人文社会系

専門分野 言語学



— 業績 —

茨城県教育委員会グローバル・サポート事業として「オンライン学習による日本語初期指導カリキュラム開発・検証に関する研究」を受託し、行政、NPO団体とともに県南・県西地区の中学校と連携して、多言語・多文化的背景を持つ子どもたちへオンラインで日本語学習サポートを行うモデル事業を実施している。開発した支援システムは茨城新聞（2020年12月6日）に掲載された。また、エクステンションプログラム「子どもたちの日本語学習支援研修」を開講し、社会人教育にも尽力した。

略歴

京都大学国際交流センター講師、筑波大学大学院人文社会科学部科学研究科講師等を経て、平成27年4月より現職。

山本 英弘 准教授

所属 人文社会系

専門分野 政治社会学



— 業績 —

政治参加、代表性、応答性における不平等をテーマに実証的研究を行ってきた。科研費基盤研究（A）、挑戦的研究（萌芽）、旭硝子財団などの外部資金を代表者として獲得したほか、分担者としても関連する共同研究を遂行してきた。国際大学協会（IAU）による高等教育と持続可能性(HESD) プロジェクトに参加し、SDG10の幹事校として活動する他、学内においても人文社会国際比較研究機構（ICR）での不平等セミナーなど、多分野にわたる不平等研究の推進のために尽力した。

略歴

山形大学地域教育文化学部講師、准教授等を経て、平成30年10月より現職。

尾碕 幸謙 准教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 統計科学



— 業績 —

日本行動計量学会の論文誌「行動計量学」に発表した2編を含む6編の査読付き学術論文および教育学における研究成果に係る書籍を共著者として発表した。これらの実績により同学会の林知己夫賞（優秀賞）を受賞した。ビジネスサイエンス系の2つの研究領域にデータサイエンスの手法を導入する企画で、公益財団法人トヨタ財団が公募した2020年度特定課題助成「先端技術と共創する新たな人間社会」に研究代表者として採択された。

略歴

日本学術振興会特別研究員（PD）、情報・システム研究機構統計数理研究所データ科学研究系助教等を経て、平成25年4月より現職。

青嶋 誠 教授

所属 数理物質系

専門分野 統計科学
統計数学・数理科学



— 業績 —

高次元統計解析による高次元現象の解明に関する研究により科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）（2020年）、国際賞Abraham Wald Prize(2019年)、東京理科大学物理学園賞(2019年)、日本統計学会賞(2017年)など受賞多数。国際統計協会日本代表、学会理事、日本学術振興会科研費委員会の幹事など、長を歴任した。現在、日本学術会議の数理科学委員会数学分科会、数理統計学分科会の幹事、国際トップジャーナル5誌の編集長と編集委員を務める。BEST FACULTY MEMBER表彰は3度目。

略歴

平成19年11月より現職。数理科学研究コア長。文部科学省委託事業「数学アドバンスイノベーションプラットフォーム(AIMaP)」拠点代表。日本学術会議連携会員。

中條 達也 講師

所属 数理物質系

専門分野 高エネルギー原子核物理学



— 業績 —

CERN 研究所の LHC加速器を用いた重イオン衝突実験 ALICE において、クォーク・グルーオン・プラズマ (QGP) の実験的研究に従事している。ALICE 実験の中で、超前方に生成される光子の識別・測定を目的とした同実験のアップグレード・プロジェクト FoCal を主導している。本プロジェクト推進のため、科研費・基盤研究(S)および基盤研究(A)等を獲得した。またグルノーブル大学とのダブル・ディグリー・プログラム及びユトレヒト大学とのリサーチユニット招致プログラムを推進している。

略歴

ブルックヘブン国立研究所研究助手、ヴァンダービルト大学物理学・天文学部研究助手等を経て、平成17年7月より現職。

中村 貴志 助教

所属 数理物質系

専門分野 超分子化学
構造有機化学
錯体化学



— 業績 —

化学の基礎または応用に関する優秀な研究業績をあげた者に授与され、若手化学研究者の登竜門と位置付けられる日本化学会「第70回 進歩賞」を受賞した（受賞題目「金属錯体ユニットの集積と構成要素の非対称化に基づく人工レセプターの開発」）。Angewandte Chemie 誌への掲載論文” Synthesis of Single Isomeric Complexes with Dissymmetric Structures Using Macrocyclic Homooligomers”などを含む4報の論文を学術雑誌に発表した。

略歴

大阪大学大学院理学研究科特任研究員等を経て平成26年4月より現職。令和3年1月よりツクバ・トップ・ランナー教員。

佐野 幸恵 助教

所属 システム情報系

専門分野 社会経済物理
複雑系科学
ネットワーク科学



— 業績 —

社会経済物理の知見を応用したビッグデータの分析を専門とし、インターネット上の情報拡散パターンに関する研究を行なっている。研究成果はEPJ Data Scienceなどの国際学術誌に掲載され、日本経済新聞などのメディアで紹介された。文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）による「科学技術への顕著な貢献2020（ナイスステップな研究者）」に選定された。女子学生向けのアウトリーチ活動を通じて、次世代の女性研究者育成に関する取組にも精力的に参加している。

略歴

株式会社富士通ゼネラル 従業員、日本大学理工学部 助手を経て、平成26年4月より現職。

磯田 博子 教授

所属 生命環境系

専門分野 食品機能学
天然物創薬



— 業績 —

テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター長を務め、JST-COI事業、JST-OPERA事業、産総研筑波大食薬資源工学OILを推進し、JST共創の場形成支援プログラムを獲得した。地中海・北アフリカ研究センター副センター長も務め、大型国際共同研究であるJST-SATREPS事業や産学連携研究を主導しつつ、国際連携の強化や省庁横断的研究事業を革新的に展開した。外部研究機関との連携、大学および部局運営、研究、教育を実施した。

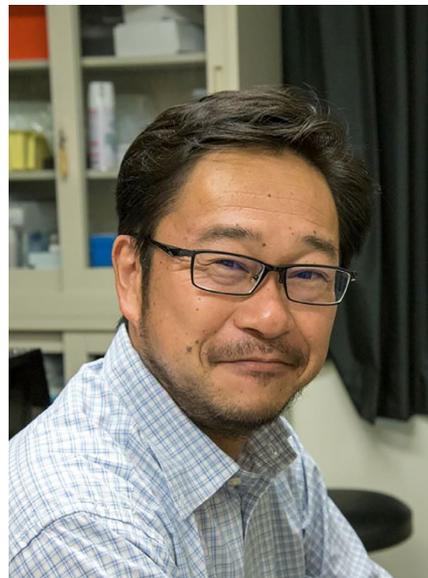
略歴

筑波大学生物科学系準研究員、国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センターNIESフェロー、筑波大学農林学系助教授等を経て、平成19年11月より現職。平成31年2月～現在、テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター長。

稲葉 一男 教授

所属 生命環境系

専門分野 細胞生物学
生殖生物学
海洋生物学



— 業績 —

繊毛・鞭毛の構造と機能、進化の解明に取り組み、ダイニンモーターの制御を担う新規タンパク質であるカラクシンやDYBLUP、クシクラゲ複合繊毛に必須な新規分子を発見した。それらの成果により科研費新学術領域研究および挑戦的研究（開拓）等を獲得した。また長年、下田臨海実験センター長を務め、最先端の海洋生物学研究拠点の構築に尽力した。マリンバイオ共同推進機構（JAMBIO）や式根島の海洋酸性化研究ステーションの樹立は、ICONAなどセンターの国際共同研究拠点活動につながった。

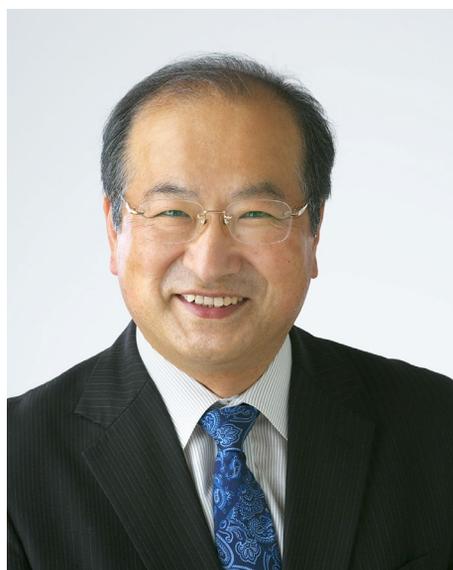
略歴

東京大学理学部附属臨海実験所助手、東北大学大学院理学研究科附属臨海実験所助教授、基礎生物学研究所客員助教授等を経て、平成16年4月より現職。

江面 浩 教授

所属 生命環境系

専門分野 遺伝育種科学
園芸科学
応用分子細胞生物学



— 業績 —

トマトの重要育種形質を改良するゲノム編集技術の開発・応用に取り組み、Scientific Report、PNASなどの学術誌に総説2編、原著論文10編を公表するとともに、CRISPR-Cas9を応用した世界初の農作物となるゲノム編集トマトの社会実装に成功した。科研費基盤研究（A）等のほかに、文科省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）、特別共同研究事業、JST-OPERA等7件を受け入れている。遺伝子実験センター長、生物圏資源科学専攻長、生命環境科学研究科長等を務めた。

略歴

茨城県生物工学研究所主任研究員、筑波大学遺伝子実験センター助教授等を経て、平成17年4月より現職。平成29年4月～現在、筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター長。平成28年10月～現在、日本学術会議連携会員。

小川 園子 教授

所属 人間系

専門分野 行動神経科学
行動神経内分泌学
社会性の形成・維持を
司る神経生物学基盤



— 業績 —

ニューロサイエンス学位プログラムの新規立ち上げ、学術院共通専門基盤科目の企画・運営に尽力した。人間系長として、多くの改革や新規事業を主導し、10年後の人間系、人間学群をリードできる人材育成に向け、柔軟性に富んだ将来計画策定の基盤構築を実現した。社会性行動に関わる神経ネットワークにおけるエストロゲンの作用機序に関する基礎研究の推進、社会行動の多様性の神経生物基盤解明に向けた海外教育研究招致ユニット受入研究者、ソーシャル・ニューロ・ダイバシティー科学のプレ戦略イニシアティブ拠点代表としての学際的・実践的人間科学研究、と多岐にわたる研究活動を展開した。

略歴

コネチカット大学Ph.D、ロックフェラー大学Assistant、Associate Professorを経て、2004年10月より現職。人間総合科学研究科副研究科長、感性認知脳科学専攻長、人間系長、人間総合科学学術院ニューロサイエンス学位PL。

山田 実 教授

所属 人間系

専門分野 応用健康科学



— 業績 —

老年学を専門とし、主に健康寿命の延伸に向けた研究活動を行っている。2020年度は、コロナ禍で高齢者に及んだ影響について調査を行った。2020年4月時点での高齢者の身体活動量を調査し、感染拡大前の2020年1月と比較して約30%も身体活動時間が減少していたことを明らかにした。さらに、このような制約が持続したことで、生活機能が低下する高齢者が増えたことを示した。その後も追跡調査を継続して調査結果を報告し、一連の研究成果は学術関係者のみならず行政関係者からも高い評価を受けた。

略歴

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻助教、筑波大学人間系准教授等を経て、平成31年2月より現職。令和2年4月～現在、人間総合科学学術院人間総合科学研究群リハビリテーション科学学位プログラムリーダー。

増地 克之 准教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ科学



— 業績 —

全日本柔道連盟強化委員会女子代表監督として、隙のない技術・戦術の定着化を図りつつ、様々なトレーニングを立案し、選手強化に取り組んだ。その成果として、ワールドマスタース大会では金メダル2個を含め、出場した6階級全てでメダルを獲得し、グラウンドスラム・タシケント大会では7階級で6個の金メダルを含めて全階級でメダルを獲得した。

略歴

新日本製鐵株式會社人事・労政部労政・福利厚生グループ、桐蔭横浜大学工学部助手、講師、筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学分野講師等を経て平成25年4月より現職。

辻 大士 助教

所属 体育系

専門分野 健康増進学
運動疫学
公衆衛生学



— 業績 —

Archives of Gerontology and Geriatrics等の学術雑誌に筆頭著者の論文2編を含む13編の論文が掲載された。高齢者の介護予防を目指す大規模疫学研究である日本老年学的評価研究（Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES）に参画し、その成果を中心に日本公衆衛生学会総会での発表賞2件、マスメディアでの紹介24件、日本学術振興会科学研究費若手研究獲得、学会発表12件など、顕著な業績を挙げた。

略歴

ユヴァスキュラ大学ジェロントロジーリサーチセンターポ
ストドクフェロー、千葉大学予防医学センター特任助教を経
て、令和2年3月より現職。

山本 美希 准教授

所属 芸術系

専門分野 絵本
マンガ
グラフィックナラティブ
イラストレーション



— 業績 —

マンガ・絵本の理論および制作を専門とし、時宜を得た社会に対する深い洞察と問題意識をもとに研究成果を積み上げた。マンガ作品『かしこくて勇気ある子ども』は主要新聞各紙での書評の掲載、新聞・雑誌へのインタビュー記事の掲載、同作の原画展の開催など、社会の関心を集め、第24回文化庁メディア芸術祭マンガ部門にて優秀賞を受賞した。また、コロナ禍における絵の役割を分析し、『群像』に論考を公表した。

略歴

筑波大学芸術系助教を経て、令和3年4月より現職。

井上 貴昭 教授

所属 医学医療系

専門分野 救急医学



— 業績 —

高度医療を担うべき本学附属病院に茨城県内で最も信頼される高度救急救命センターを作り上げた。院内全ての重症患者の診療を救急・集中治療科が担うclosed ICU体制を構築し、重症患者の治療にあたった。重症COVID-19患者の呼吸器管理・体外循環(ECMO)管理を行い、全員を救命した。本学だけでなく、茨城県全体のCOVID-19患者の治療体制の組織構築の中心的役割を果たし、県内のCOVID行政に大きく貢献した。

略歴

大阪大学医学部附属病院医員（医師）、助手、Department of Surgery, University of California San Diego Postdoctoral Scholar、順天堂大学医学部附属病院浦安病院救急診療科准教授等を経て、平成28年2月より現職。

坂田 麻実子 教授



所属 医学医療系

専門分野 血液がん
(特に悪性リンパ腫)
がんゲノム解析

— 業績 —

血液学臨床医として多くの患者の治療を行うとともに、血液がんの病態の基礎研究を行う physician scientistとしても国内外で広く活動をしている。特に、血液がんの一つである「T細胞リンパ腫」においては、ゲノム異常を明らかにし、国際的な新たな診断法を確立した。さらに、分子病態を明らかにし、これを標的とする治療開発研究へと貢献した。これらの成果により、「第4回日本医療研究開発大賞 日本医療研究開発機構（AMED）理事長賞」、「第25回日本女性科学者の会奨励賞」をはじめとする数々の賞を受賞するなど、高く評価された。

略歴

東京大学医学部附属病院医員、筑波大学附属病院医員、筑波大学医学医療系講師、准教授、学長補佐等を経て、令和3年11月より現職。

松本 正幸 教授

所属 医学医療系

専門分野 学習
認知機能
モノアミン



— 業績 —

ドーパミンニューロンが合理的な意思決定を支える脳の重要な神経基盤であることを明らかにし、その成果をScience Advances誌等に発表した。これらの成果は、ヒトの高次脳機能障害のメカニズムの探索や診断法・治療法を開発する上で、重要な知見となり得るものである。また、JST-CREST、新学術領域研究等を獲得した。これらの取り組みにより、神経科学研究における筑波大学の地位を国際的に高めた。

略歴

Laboratoey of Sensorimotor Research,National Eye Institute,National Institutes of Health Postdoc Fellow、京都大学霊長類研究所分子生理研究部門統合脳システム分野助教等を経て、平成24年12月より現職。

丸島 愛樹 講師

所属 医学医療系

専門分野 脳神経外科
救急・集中治療
脳卒中、神経救急



— 業績 —

小児脳性麻痺の運動機能障害に対する装着型サイボーグHALの医師主導治験、脳梗塞急性期の細胞治療法の開発の研究でAMED、科研費の外部資金を代表として獲得し、英文原著論文を発表するなど、社会実装を目指した研究開発に取り組んでいる。社会貢献、救急医療、教育も並行して高いレベルで遂行する全方位に隙のないバランスの取れたAcademic surgeonである。

略歴

東京都神経科学研究所研究生、筑波大学附属病院脳神経外科、産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門研究生、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生、シャリテー医科大学ベルリン脳神経外科研究員等を経て、平成25年9月より現職。

讃岐 勝 助教

所属 医学医療系

専門分野 数値数式融合計算
教育工学
医療情報学



— 業績 —

医学医療系を中心とする医学エリアの大半のICTシステムの仕様策定、システム導入・構築・運用、インシデント対応に加えて、医療データの解析基盤の整備・運用を一手に担い、医学エリアの教育・研究活動の円滑な推進に貢献した。

特に、コロナ禍によるオンライン授業への社会的要請に応じて、迅速にハイフレックス型の収録・配信システムを構築したことにより、医学群のオンライン授業へのスムーズな移行に尽力した。

略歴

筑波大学大学院数理物質科学研究科数学専攻修了。その後、筑波大学教育開発国際協力研究センター研究員、医学医療系研究員等を経て、平成27年12月より現職。

井上 智雄 教授

所属 図書館情報メディア系

専門分野 ヒューマンインター
フェース・
インタラクション
教育工学



— 業績 —

コンピュータによる協調作業支援、メディアコミュニケーションデザインを専門とし、オンラインコミュニケーションシステムの開発において、優れた研究成果を発表してきた。国内外で、CollabTechの運営委員、ACM CSCWのPaper Associate Chair、情報処理学会グループウェアとネットワークサービス研究会主査、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究専門委員会委員長を務めるなど、研究コミュニティの発展に大きく貢献した。

略歴

国立情報学研究所知能システム研究系助手、総合研究大学院大学数物科学研究科助手、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授等を経て、平成26年4月より現職。

日下 博幸 教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 気象学・気候学



— 業績 —

都市気象学等において顕著な貢献をした者に授与されるアメリカ気象学会（AMS）の The Helmut E. Landsberg Award を受賞した。近年20年間のAMS受賞者では3人目の日本人受賞者となった。Springer出版の国際誌にて、過去50年間で大気境界層気象学に最も貢献し引用された論文トップ10に、世界最大ユーザ数を誇る気象予測モデルWRFの都市スキームの論文(Kusaka et al 2001)が選出された。12名の院生と3名の学群生を主指導した。

略歴

財団法人電力中央研究所環境科学部研究員、流体科学部主任研究員、筑波大学大学院生命環境科学研究科講師、計算科学研究センター准教授を経て、平成28年11月より現職。

塩川 浩昭 准教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 データ工学
データベース
データマイニング



— 業績 —

大規模データの効率的な管理・処理に関して精力的に研究を行っており、特にデータ処理の高速化について卓越した成果を挙げている。とりわけ、その成果が人工知能分野の最難関国際会議AAAI、IJCAI等に採択されたことは特筆に値する。国際的に顕著な学術貢献がある若手を表彰する日本データベース学会上林奨励賞を含む2件の表彰を受けるとともに、研究代表者としてJSTさきがけ・ACT-I等の多くの外部資金も獲得している。

略歴

日本電信電話株式会社研究員、筑波大学計算科学研究センター助教を経て、令和2年4月より現職。

丹羽 隆介 教授

所属 生存ダイナミクス
研究センター

専門分野 生理遺伝学
発生生物学
動物生理・行動
応用生物化学



— 業績 —

近年、責任・最終著者として、査読付き原著論文を *Nature Communications*、*PLOS Biology*、*eLife*、*Current Biology* 等の著名な国際学術誌に発表している。また研究代表者として科研費新学術領域研究を、研究分担者としてAMED-CRESTの受託研究費を受け入れた。加えて、国内2学会の理事、英文誌5誌の編集委員を務めており、当該分野において国内外でプレゼンスを示している研究者である。

略歴

日本学術振興会特別研究員SPD、HFSP long-term fellow、筑波大学生命環境系助教、准教授、JSTさきがけ研究者等を経て、令和元年6月より現職。高エネルギー加速器研究機構客員教授を兼任。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学BEST FACULTY MEMBER
表彰制度に基づき、2020年度の
教育研究活動において、極めて優れた
業績を上げたと認められ、表彰された
本学教員を紹介しています。

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2047
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp